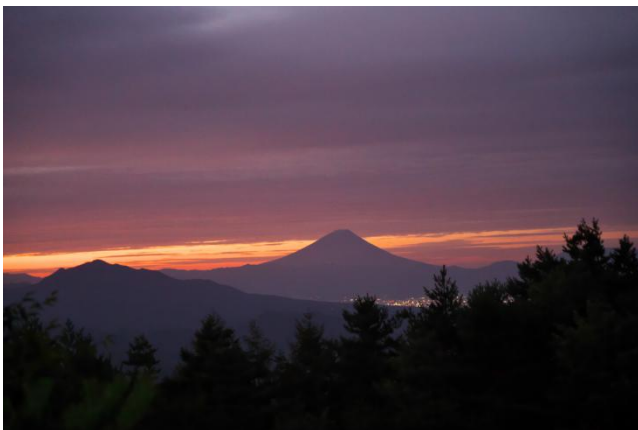


長泉麗峰山の会・山行報告書	文・北村	写真・北村、井上
山行番. NO. 2038-2		
日時 2023年10月07日(土) 晴れ		
山域 ハッ・権現岳(2715m)		
コース 天女山登山口(5:28)-前三ツ頭(7:45)-三ツ頭(8:35)-権現岳(9:22)-東ギボシ(9:54)-西ギボシ(10:15)-権現小屋・昼食(10:30)-権現岳(11:06)-三ツ頭(11:46)-前三ツ頭(12:17)-天女山登山口・下山(14:11)-長泉(17:20)		
標高差 上り・下り=約1310m(累計)		
難易度 非常に困難 困難 やや困難 レ普通 やや易しい 易しい		
気持ち良い秋晴れ、ハッ・権現岳		
参加者 井上(CL)、山田、北村=3名		

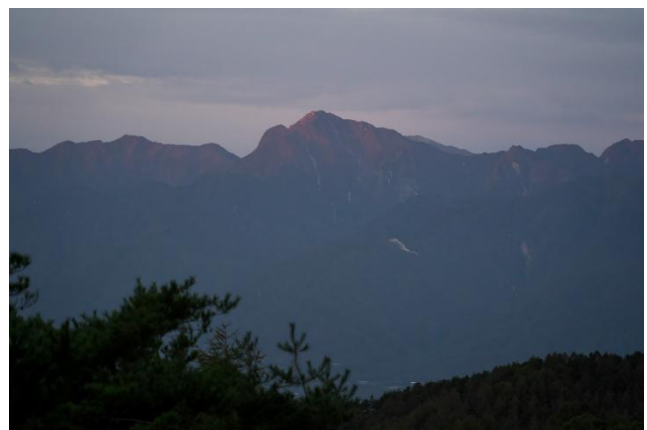
山行前日の10月6日”野辺山で全国一の寒さ(-0.2℃)を記録”とニュースで報じられた。長泉麗峰山の会のメンバー3人で集まったのは野辺山から近い清里町の天女山。会の雪山登山コースにもなっている権現岳への日帰りピストンを実施した。

三連休の混雑を想定して車中で前泊したが、やはり夜は寒く上着を3枚重ねて過ごした。山行当日も晴れ予報ながら、山頂の予想気温は3℃、風速14m、体感温度氷点下に対応できる装備を持参しての登山となった。

冷えた朝、温かい手袋と上着を着こみヘッドライトで登山開始。スタートから15分程で眺望の良い「天の河原」に出た。朝焼けにくっきり富士山のシルエット、山頂が赤味を帯びた少しモルゲンがかった甲斐駒ヶ岳が目をついた。



朝焼け

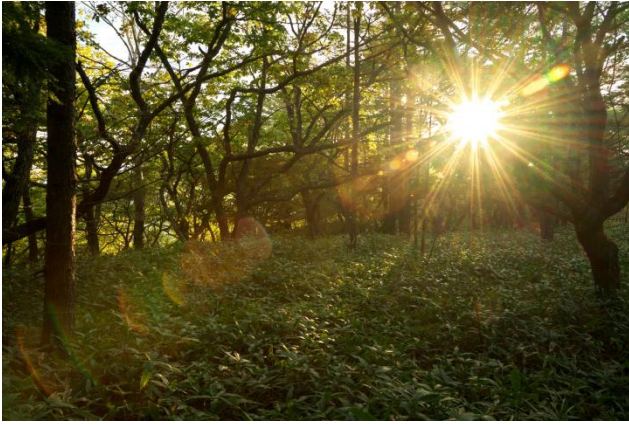


甲斐駒ヶ岳(望遠)

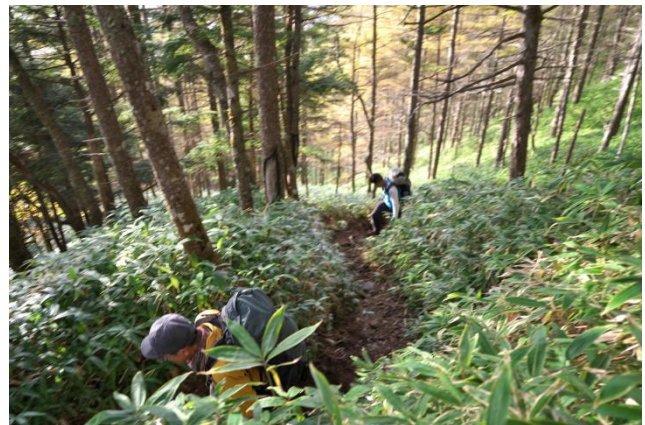
天の河原を過ぎると、しばらく眺望の無い単調な登山道が続くが、午前6時を過ぎたころ、森に木漏れ日が射した、いつもながら気持ち良い。のぼり坂で身体もすっかり温まり、休憩している登山者を追い越しながらグングンと標高を上げた。

途中、笹が深くなったが、うるさい虫がいなかったので快適だった。樹林帯の急登が後半に差し掛かるころ、「ここが一番きつい」と書かれた看板、励ましの看板ありがたい。

Yさんは雪山での再来に備えた下見も兼ねての山行との事、道を良く見て歩いていた。



木漏れ日にパワーをもらって



笹原をグングンのぼる

スタートから1時間50分ほどで眺望の良い場所に出た。富士山、南ア、秩父の山々、紅葉が始まった樹林の森、そして白い雲が浮かぶ澄んだ秋の空が印象的だった。

南アの貴公子(甲斐駒)と女王(仙丈)が良く見えた。並んで見える二つの山は名付け人のセンスが理解できる素敵な山容だった。仙丈ヶ岳から富士山、北岳、間ノ岳 標高1、2、3が並んで見える事を思い出し話をしたら、三位は穂高では??・・・との反応。会話が聞こえていた近くの登山者が「同じ標高なので、どちらも三位ですね～」と話に参加する。素晴らしい景色にみんな気分が良い。山の会話が弾んだ。

標高を上げて寒さは感じなかったが、地面には霜柱ができて冷え込みを実感した。つい一週間前、猛暑の沼津アルプスを滝汗かきながら歩いたのが幻のようだ(笑)。前三ツ頭を通過して紅葉が始まる樹林の森を先へ進んだ。



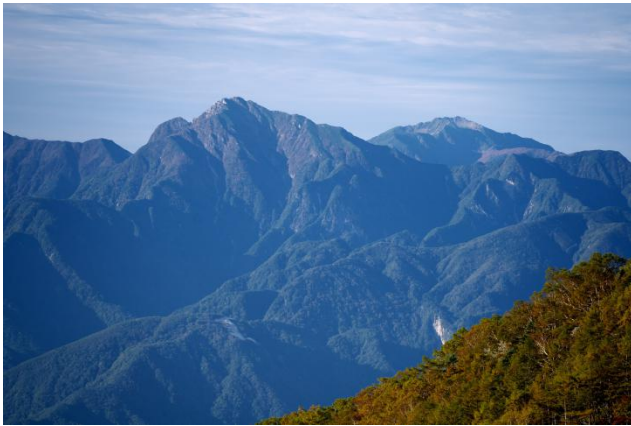
景色を見入るIさんとYさん



雲が良いアクセント 秋の空がすごく良い



紅葉のナナカマドと白根三山方面



南アの貴公子と女王(望遠)



この秋初めて見る霜柱

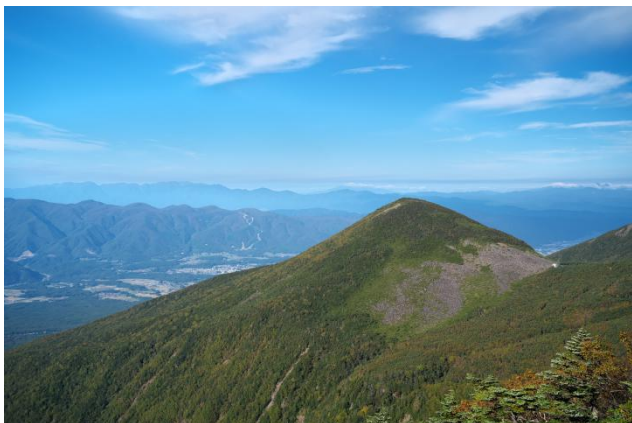


紅葉の森を進む(登山者はYさんとIさん)

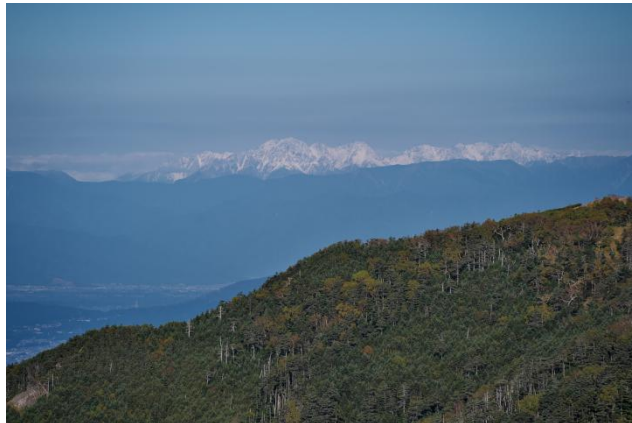
更に標高を上げていくと、編笠山や中央アルプス、遠くには雪が積った山が見えてきた。編笠山の左、市街地を挟んだ先にはスキー場で分かりやすい入笠山が良く見える。

「入笠山ですね、今日 IT さん(麗峰の会員)が行ってますね」と三人同じ事を思った。

雪を抱いた山は、御嶽山と北アルプス。御嶽山は半分雲がかかって分かりにくかったが、北アルプスは穂高～大キレット～槍ヶ岳の山並みのはっきり。雪化粧してすっかり冬山の装いになっていた。



編笠山をまん中に左:入笠山 右:御嶽山



雪化粧した北アルプス(望遠)

標高 2580mの三ツ頭に到着した。本日の目的地 権現岳はもう直ぐそこ。迫力ある南八ヶ岳の山々もくっきりと見える。青空の下、最後の坂を上りきり、ほぼ予定時刻に権現岳に登頂した。まずは権現様に手を合わせる。三人全員での写真を撮りたかったが、時間が早いせいか、他の登山者は居なかった。交代で写真を撮り合った。



権現岳(写真左上)まであと一登り



迫力の南八ヶ岳を横目に



開放的な尾根が気持ち良い



秋の空とひんやりした空気が清々しい



鎖場をよじ登り



グングン進む(撮影:井上)



雲が面白い



最後の鎖場



権現岳登頂!!



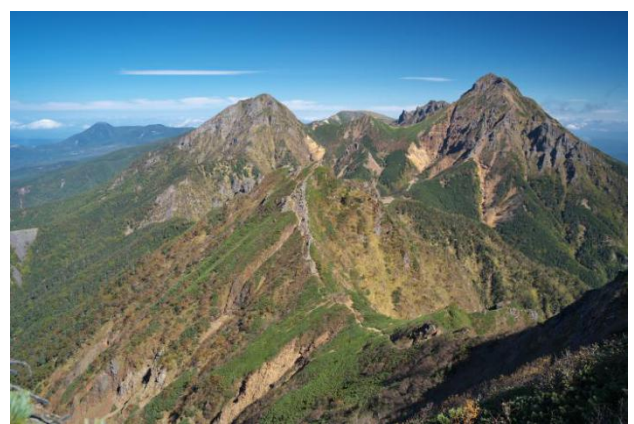
山頂から富士山を望む

しばし権現岳で 360° の眺望を楽しみ東ギボシに向かった。距離は短いが急斜面の岩場なので慎重にゆっくり歩いた。眼下に、過去に山の会で登った阿弥陀岳 南稜が見え、I さんが歩いたルートを教えてくれた。荒々しい斜面が魅力的、登攀技術をつけて登ってみたい。間近に見える赤岳は 3 回登っているが何度見ても良い、雄々しい山容に惹かれる。

ちょうど人が到着し始める時間なのか、編笠山側からは多数の登山者が歩いてきた。15 分ほどで東ギボシに到着、居合わせた若い男性とお互いの写真を撮り合った。南八ヶ岳をバックに 3 人揃ったお気に入りの一枚になった。



東ギボシ、西ギボシに向かう(後方は権現岳山頂)



蓼科山までの八ヶ岳稜線を一望



東ギボシ山頂でスナップ写真



権現岳と権現小屋(東ギボシから撮影)



東ギボシ～赤岳～横岳(西ギボシから撮影)

ゴールまで歩ききったところで、
権現小屋に戻り昼食にした。

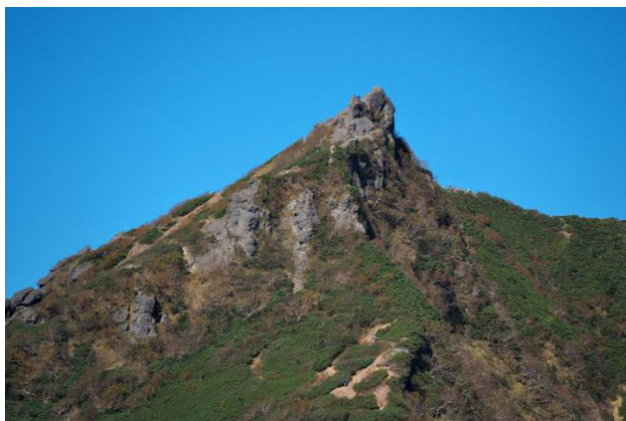
小屋は休業しており人の出入りも
無かったので、ゆっくり景色を見な
がら食べる事ができた。強風予報に
反して風は弱く陽射しもあって快適
だった。



権現小屋でゆっくり昼食

東ギボシの斜度は45°くらいだろうか？ Iさんが「良い坂だ、冬にピッケルとアイゼンの前爪をガッツリ刺して登ってみたい」と言った。登攀する姿が目には浮かぶ。そしてふと G 会長のご自宅で拝見した、Gさんが槍ヶ岳の北鎌尾根をよじ登っているカッコ良い写真を思い出した。冬山シーズンも楽しみだ。

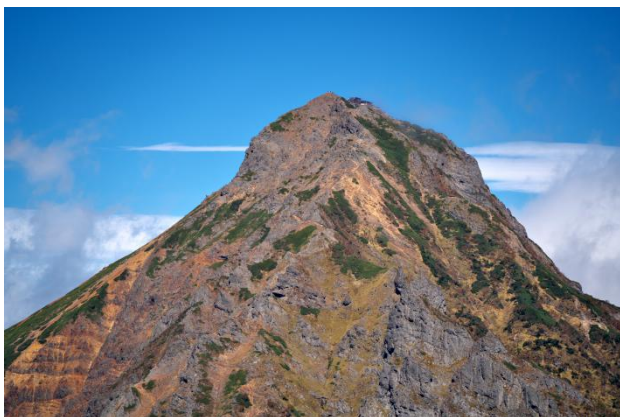
昼食を終えて下山開始、午後の権現岳は登山者で賑わい、まだ登ってくる人もいた。順光の濃い空に面白い雲が印象的、この日一番目立っていたのは赤岳。6月の直会で話題になった、赤岳難関ルート of 真教寺尾根を会のメンバーでトライしたいねと会話をした。下山途中、朝は逆光ぎみで見えにくかった金峰山と瑞牆山の山肌が良く見えた。終日晴れて、高い空が心地良かった。



午後は登山者で賑わう権現岳山頂



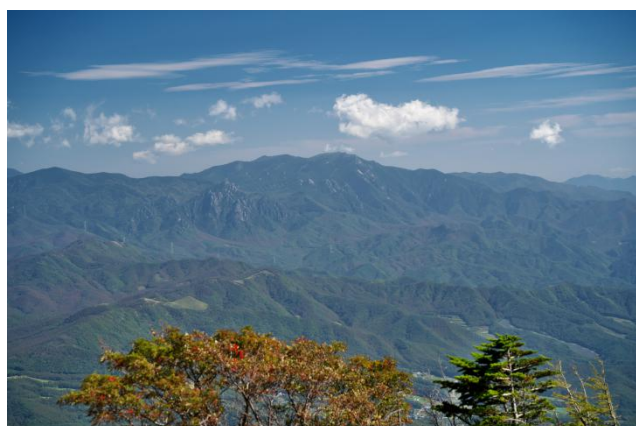
面白い雲が浮かんでいた



赤岳(望遠)



明るく開放的な道をくだる



金峰山と瑞牆山



三ツ頭付近 空が高い

下山後半でふと花の写真を一枚も撮っていない事に気づいた。この季節だから仕方なしと思ったが、最後に「天の河原」でピンクの花が目に入り近づいた。アザミが一輪可憐に咲いていた(下山後、夕飯をご一緒したKさんに写真から鬼アザミと教えてもらった)。

今回は個人的に大きなミスが一つあった。自宅で準備した紙地図を忘れてきてしまった。車中で気づいてがっかりした、やむなく手書きで地図を描いたが、等高線がなく役に立たなかった。ただ、冷静に考えると山の会の地図読み訓練で、紙地図で歩く習慣が身に着いてきたんだなあ実感、会の皆様には本当感謝である。

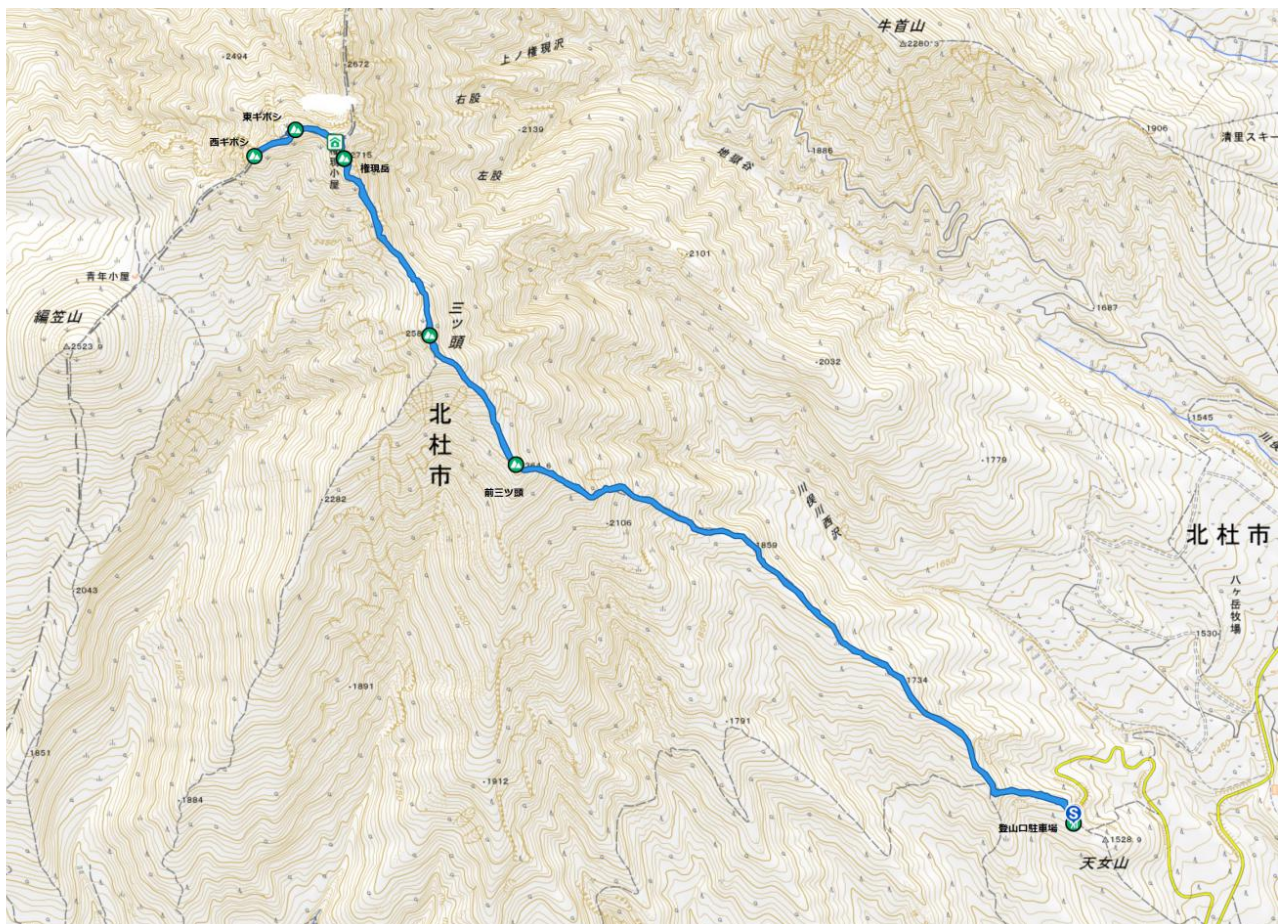
14時11分 トラブルなく三人元気に下山、今日も充実した一日だった。



鬼アザミ



トラブル無く元気に下山



登山ルート概要